

R16 studio

R3 丸山純子

まるやま・じゅんこ | ニューヨーク市立大学ハンターカレッジ美術学科卒。主に、プラスチックや石鹸など身近にある物を使って自然と人工、個人と社会をキーワードに制作。国内外問わず様々なアートプロジェクトに参加。主な展覧会は、2017年「BankART Life V-観光」(BankART Studio NYK)、2016年「5rooms」(神奈川県民ホールギャラリー)、2014年「漂泊界(入善町下山芸術の森発電所美術館)」など。

4/4~11、ギャラリーバリエで行う個展に向けての制作。これまで扱ってきた石鹸とその他の素材を合わせ、連想ゲーム、手悪戯のように制作を進める。作業することで、癒される、そんなことを思いながら制作している。



R5 日原聖子

ひはら・せいこ | 2018年ブラハ美術アカデミー修了、ヨゼフ・フラーフカ賞受賞(ヨゼフ・フラーフカ・ズデニェク・フラーフカ財団)。2017年第4回CAF賞入選。2020年第13回岡崎新進美術家育成「氏賞」奨励賞受賞。2019年より東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程在籍。

刺繍や糸、紐、フェルト、衣類の解体と縫い合わせ、手芸的作法、家族の残したメモの引用などにより、人とのやりとり/コミュニケーションの痕跡を形づける方法の思考。



R6 山本愛子 | 今井さつき

いまい・さつき | 1988年神奈川県出身。アート、遊び、デザインの領域を横断しながら、鑑賞者参加型作品の制作・発表を行っている。また制作と並行して、自作品の特徴である玩具性、接続性、遊戯性などを軸として研究と論文執筆を行っている。東京藝術大学大学院 美術研究科 博士後期課程在籍中。

やまもと・あいこ | 1991年神奈川県出身。東京藝術大学先端芸術表現科修了。平成30年度ポーラ美術振興財団在外研修員として中国で研修。染織技術とそのエッセンスを元に作品を制作。糸や染料など、自然からの生命を得た素材が持つ土着性や循環の可能性について考え、表現に反映させることを試みている。

カンボジアと日本の作家3人が、交換日記や郵送を通してお互いの日常を共有し、そこから生まれたアイデアをカタチにするプロジェクト「Daily Round Trip」を行っている。現在は、日常の共有から現れた「風」をきっかけに、プリンペンから郵送されたシルクを横浜周辺の草木などで染め、風を制作している。

R4 asamicro

あさみくろ | ダンスバトル、大会を経て、DANCE DANCE DANCE@YOKOHAMA 横浜市民文化プログラム「朝ごはん」美術家: 千田泰広、音楽家: 種子田郷と共に共同作品として上演、表参道 spiral SICF20 PLAY 部門選出アーティスト、NPO法人鎌倉あそび基地フリースクール Largo にて自己表現講師。

朝、朝ごはんをテーマに、記憶や経験を視覚化するべく、踊り・映像・インスタレーション等で制作しています。今回は2月末開催の自主公演に向けてのイントロ作品として「壊れる生まれる」について卵の殻と納豆パックを使用し振付の想像を広げ、空間に依存的に配置させて記録しています。期間中過去の映像作品も流す予定です。



R7 土屋信子

つちや・のぶこ | インスタレーションをメインに制作。2003年ベニスビエンナーレがデビュー展。2020年の展覧会に、日産アートアワードファイナリスト展(横浜)、個展 Gregor Podnar(ドイツ)、Mostyn(イギリス)、グループ展に、GareriaAlineVidal(フランス)、Yorkshire Sculpture International(イギリス)、Grenoble美術館(フランス)、六本木クロッシング森美術館(東京)その他がある。

今回はドローイングをメインにインスタレーションを展開。ドローイングに力を入れるのは今回が初。



撮影:佐藤基

R11 HiroYuki Studio

ひろゆきすたじお | CoCo(ソウル生まれ、ニュージーランド・オークランド大卒)と、Hiro Yuki(東京生まれ、多摩美大卒)の2名でアーティストスタジオ「HiroYuki Studio」を設立。社会・時事・政治問題に対し保守的な立場からアートの視点で解釈する作品をSNSなどのWeb上で発表。

自叙伝的なストーリーをヒントにつくり上げた仮想世界(SNSの作品参照)を、現実の世界にさまざまな手法を用いてインスタルシ表現してみることで、想像と覚

R9-10 渡辺 篤

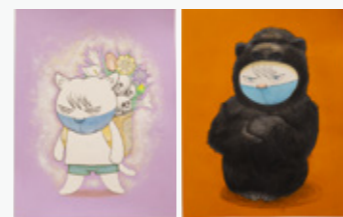
わたなべ・あつし | 2009年東京藝術大学大学院修了後、ひきこもりを経験し、美術家として社会復帰。2020年横浜文化賞文化・芸術奨励賞。個展「修復のモニュメント」(BankART SILK、神奈川、2020年)やグループ展「Looking for Another Family」(国立現代美術館、韓国、2020年)など。

今年度、ひきこもりや心身の障害等をはじめとする継続的孤立当事者に加え、新たにコロナ禍によって発生した一時的孤立当事者らとともに、プロジェクト「同じ月を見た日」を立ち上げ活動している。この展覧会をR16スタジオを会場として2021年2月末から開催予定。国内外のメンバーらと遠隔で繋がり準備を進めている。



同じ月を見た日(制作中) ©Atsushi Watanabe 2021. ©f'm here project 2021

醒の境界とは何かを考察したいと考えています。さまざまな対立事項における関係性を解決するためではなく、可視化する試みである作品です。



アクセス

□ BankART Station
横浜市西区みなとみらい5-1
みなとみらい線「新高島駅」
地下1階

□ R16 studio
横浜市西区桜木町7-48
「新高島駅」「高島町駅」より
徒歩5分

※国道16号線の横断歩道のない場所を横切るのは、絶対に止めてください。

お問い合わせ |
BankART1929
TEL 045-663-2812
info@bankart1929.com
www.bankart1929.com



BankART AIR 2021 WINTER OPEN STUDIO

2021.2.5 fri. - 2.7 sun. 2.12 fri. - 2.14 sun. 11:00-19:00

BankART Station & R16 studio 入場無料

主催: BankART1929 共催: 横浜市文化観光局



□ BankART Station(新高島駅)
石川慎平 / 庄司朝美 / 関和明 / 富田紀子 /
クボザイク / 足立真輝 / 入口可奈子 /
細瀬太麻紀 / 宮森敬子 / 秋山直子 /
タケサワヒサミ(TO) / 保良雄 / 宮本康太郎 /
尾山久之助 / 黒田英美 / 橋村至星
□ R16 studio(東横線廃線跡高架下)
丸山純子 / asamicro / 日原聖子 /
山本愛子 / 今井さつき / 土屋信子 / 渡辺篤 /
Hiro Yuki Studio

BankART AIR 2021 WINTER オープンスタジオ

@BankART Station & R16 studio

会期:2021年2月5日[金]~7日[日] 2月12日[金]~14日[日] 11:00~19:00

会場:BankART Station & R16 studio 入場料:無料

BankART Station では、現在16組のアーティスト達が、12月6日から約2ヶ月間、制作活動をおこなっています。また、R16スタジオには、既存作家に加えて都合7組のアーティストが、活動を始めております。基本的には、制作場所(スタジオ)の公開ですが、12月~1月に制作した成果物も発表します。是非皆様、お気軽にご参加ください。

BankART Station

St01 石川慎平

いしかわ・しんぺい | 1989年東京生まれ。2014年多摩美術大学大学院彫刻専攻修了。2019年「grove | SUPEROPEN STUDIO」。「群馬青年ビエンナーレ2019」入選。2018年「個展:残像の記録」。2017年「個展:active」、2017年「アクリルガッシュビエンナーレ」入選。2017年「IAG AWARD 2017」入選。

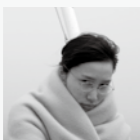


日々の出来事や記憶を彫刻にして残します。また、油絵をシリコン型取り→複製する「painting sculpture」シリーズを滞在中に制作。様々な素材で複製することで絵画から色を奪い形を浮か彫りにすることを試みます。



St02 庄司朝美

しょうじ・あさみ | 多摩美術大学大学院美術研究科修了。絵画を多面的な思考活動と捉え、想像力を深く駆動させるための表現として制作を続けている。絵画における身体性と物語をテーマに、主にアクリル板を支持体とした絵画やアニメーションなどを制作。令和2年度五島記念文化賞受賞。東京を拠点に個展、グループ展多数。



鑑賞者が体を使って絵画を体験できるように、大型のインスタレーションを展開。描く身体と鑑賞する身体の連続性、そしてそこに見出される物語について考察する。また制作過程を撮影し映像作品として発表予定。この展示は、イメージをテーマとした女性作家とゲストによる Unknown Image Series no.8 の号外編 extra (企画:カトウチカ)となる。



St03 関和明

せき・かずあき | 建築家・建築史家。関東学院大学名誉教授。横浜市の都市デザイン活動のひとつである歴史的建造物の保全活用事業に対して調査などを通じて協力。主な研究対象は古代エジプト建築と建築におけるモダニズム(パウハウス)など。

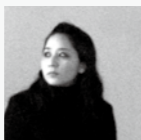


(仮称)「もりのなかのまなびや」@北海道H町計画。Book Barn(書庫)とStudio Cabin(仕事場と住まい)の設計および書棚のデザイン。



St04 富田紀子

とみた・のりこ | 東京都出身。多摩美術大学大学院修士課程美術研究科デザイン専攻テキスタイル領域修了。2018-19年 Textile Art of Today(スロバキア、ハンガリー他巡回)、2016年現代テキスタイルアートビエンナーレ(ポルトガル)、瀬戸内国際芸術祭(粟島)、2014年六甲ミーツアート(兵庫)等。



毎日習慣で飲んでいるドリップコーヒーの、使用済みフィルター約3年分を用いてファイバーアートを制作。不織布であるコーヒーフィルターを加工し、独自のパターンを追求する。展覧会の為のサンプル制作として、二次元の線と三次元の糸による試作。



St05 クボザイク

くぼざいく | パナマ出身。小学4年~小学6年までロンドンに居住、小学6年~中学2年までロスアンゼルスに居住。最終学歴:専修大学経済学部。(注)美術は誰かに教わることなく、ほぼ独学。・消しゴムを使ってモザイク柄を作成する。・一つの空間をモザイク柄にして3次元を錯覚で平面に見せる。・布製のキャンプ用品(テントなど)や等身大の人形で異空間を作り、現代のお化け屋敷を作成。・制作時間を計測。・アーティストの労働を時給に換算し、派遣労働と美術労働の時給、身体的労働、精神的労働を比較。



St06 足立真輝

あだち・まさき | 主な受賞歴として、金沢区民賞(関東学院美術部)(2013)、ダイワハウスコンペ 最優秀賞(個人)(2017)。2020年の主なグループ展として、静物2020(アーツ千代田3331 ex-chamber museum)、似て非 works 10th anniversary exhibition(似て非未言)、BYE BYE 2020(LAUNCH PAD GALLERY)。夢や記憶の中にある空間を題材にした作品の制作を通して、オブセッションな形象を有限体に落とし込むための表現手法を探究している。今回は、昨年から取り組んでいる「スカルプチュアとしてのマーケット」の新たな表現手法を探究していくとともに、進行中の幾つかのプロジェクトのスタディ模型などを、常時公開していく予定。



写真やカメラを「見る」ことのメタファーと捉え、その既視感と違和感の間を往来する。今回のスタジオでは、日常の中にカメラオブスキュラを忍ばせる「八百万の神」シリーズを展開。



St07 入口可奈子

いりぐち・かなこ | 日本大学芸術学部デザイン学科建築デザインコース卒業。2016年より創作活動を開始。都内を中心に活動を行っている。主な個展として、2018年個展「S = 1 : 記録」日本橋小伝馬町。2019年個展「私の考現学への歩み」日本橋小伝馬町。2020年5月個展「前日」日本橋小伝馬町。他、グループ展多数。



はかるということに関心を持っており、今回2018年に発表した個展「S = 1 : 記録」の再考をしている。当時と現在の状況は異なることや、AIRという共同空間の中での他者との関係を考慮しつつ、「S = 1 : その先」と称してはかるをテーマに制作している。

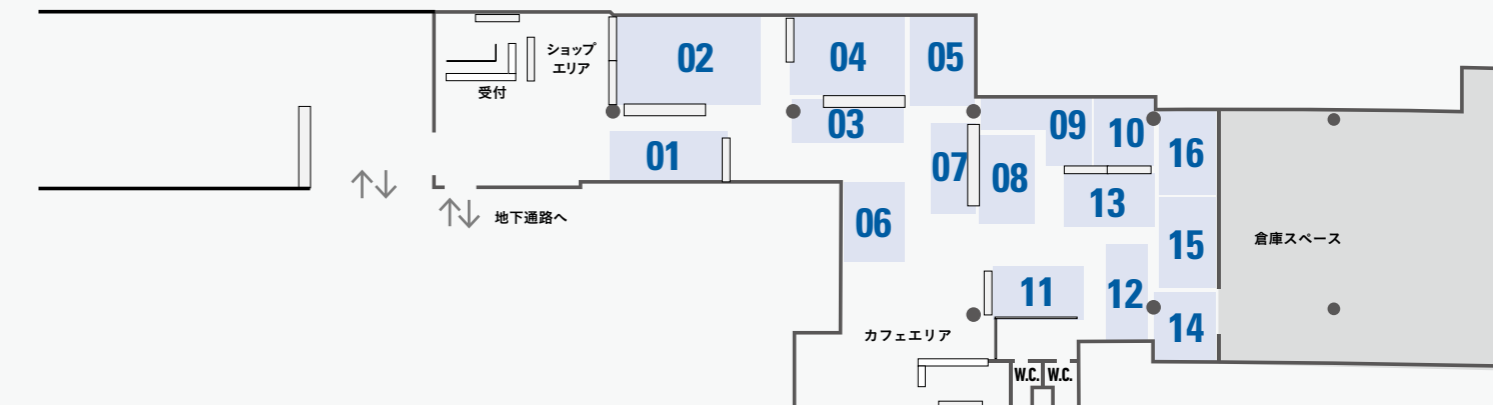


St08 細淵太麻紀

ほそぶち・たまき | 多摩美術大学デザイン科卒業後、美術・建築ユニットPHスタジオに参加。2004年、BankART1929の創立に関わり以降企画運営全般に携わる。2017年より「現像」共同主宰。主な展覧会に「photopia/scotopia-東京」(TOKAS 本郷/2018)等。2020年、台北国際芸術村にAIR滞在。



写真やカメラを「見る」ことのメタファーと捉え、その既視感と違和感の間を往来する。今回のスタジオでは、日常の中にカメラオブスキュラを忍ばせる「八百万の神」シリーズを展開。



St09 宮森敬子

みやもり・けいこ | 横浜市出身。現在ニューヨークと横浜に滞在。筑波大学大学院日本画研究科を卒業、1994年三木多聞賞受賞。1998年文化庁新進芸術家海外留学制度により米国ペンシルバニア大学大学院に在籍。その後フィラデルフィア、ニューヨークと工房を移す。数年前から「樹拓シリーズ」作品が日本で新聞や本の挿画に使われはじめた。BankART AIRには、2019年より参加。



戦前ハワイに生まれ、日本に嫁いだ祖母マツノに関連した、米国日系2世についての調査と、家族に残された傷について、そのルーツを探っています。BankART AIRでは、関連した土地、アルコール依存症を患っている母がいる久里浜の療養所、各地に赴いて集められた「樹拓」を、個人的な記憶の印と置き換えてキャンバスに張り込みながら、記憶を手放すことができるか、試んでいます。



St10 秋山直子

あきやま・なおこ | 京都生まれ。14~19歳をオランダで過ごす。編集者、デザイナーを経て、2009年より写真家・元田敬三氏に師事。2011年~2020年黄金町アーティスト・イン・レジデンス参加。主に写真を用いた作品を中心に制作している。「黄金町バザール2020」参加。「横浜トリエンナーレ2020」にはエレナ・ノックス氏のプロジェクトにて参加。



ビジュアル(写真)と味覚(コーヒー)の関係を探っている。風景を「味」で表現すること。「味」によって鑑賞者のなかに景色を描くこと。モチーフの選択、色味、コントラストの強弱など、画像のもつ特徴と味覚とをリンクさせることを試みる。もし成立すれば、メニューの代わりに写真が並び、そんなカフェが誕生するかもしれない。(協力:chair COFFEE ROASTERS)

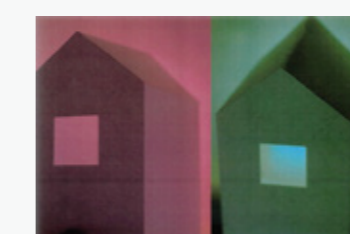


St11 タケサワヒサミ(TQ)

たけさわ・ひさみ | 横浜市在住。Bゼミスクール・サマーセッション履修、2004年イメージフォーラム付属映像研究所アニメーションクラス2期生。プロダクト開発や情報デザイン~宣伝美術に関わりつつ、同時代の身体表現や美術、メディア・アートをリサーチ。いわゆるアートプロジェクトやチームでの開発が多く、個人の表現活動アウトプットについて模索中。



今回のレジデンスでは、複数のデバイス(出力機器)を使ったインスタレーション形式で「残像のようなもの」を集めます。無作為に放り出された他愛のない「残像」。しかしそれによって時間や空間を想像してしまうようなもの(映像、サウンド、etc.)たち。研究活動としての(TQ)GitHubでwebページを公開予定。



St12 保良雄

やすら・たけし | 2018年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。2020年 École nationale supérieure des beaux-arts 修了。主な展覧会として、2020年、清流の国さぶ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2020 - 岐阜。2019年 Jeune Création 69 - Paris, France。



都市に形成している様々な要素を抽出し、限られた空間内に取り込みます。生命、無生物は関係なく、さまざまな存在が多様な視点で融合、分離を繰り返し限られた空間内で彼らがどのように調和していくのを彼ら自身に委ねることで、彼らの存在、営み、儚さ、そして美しさを問おうとしている。



St13 宮本廉太郎

みやもと・れんたろう | 横浜美術大学映像メディアデザインコース卒。広告代理店にてアシスタントフォトグラファーとして勤務。2018年アーティスト、フリーランスフォトグラファーとして活動開始。コンセプトを組み立てセットアップした写真作品を制作している。主なグループ展に2012年宮本廉太郎×須田真代展(J3 Gallery/中野マンガアートコート)。2019年 An Awakening Photography 東京芸術劇場など。



空虚をテーマに制作。私達の社会は不便なく、すでに物や情報に溢れている。私は両親に育てられ、生きていく上では何不自由ない。しかし物事の利便性が増すにつれ、時は加速し、他者との繋がり、関わり方に対し空虚さを感じる事が増えた。膨大な情報、選択肢があればある程に迷い、わからなくなる。感情が限りなく無へと近づいていく。生きているのか、死んでいるのか、リアルを実感しない。写真を通し、それを表現していく。

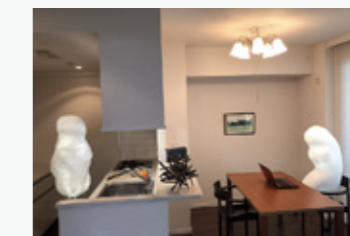


St14 尾山久之助

おやま・ひさのすけ | 1953年神奈川県生まれ。2012年武蔵野美術大学(通信課程)卒業。2016-2020年、SOS (Super Open Studio)(相模原)。2017年、BankART AIR(横浜)。2018・2019年、SOS SOMETHINKS(相模原)



令和2年、大正14年に生まれ生涯の多くを横浜で過ごした母が95歳で他界しました。今回、遺された写真のアルバムからヒントを得てインスタレーションを制作・発表することにしました。この作品を今この場所で制作し発表することには個人的な意味もありますが、単なる個人の思い出にとどまらない作品にしたいと思っています。

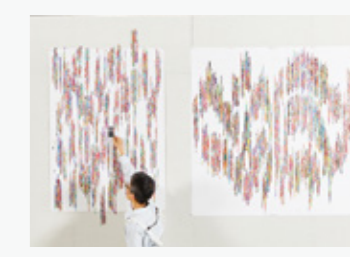


St15 黒田英美

くろだ・ひでみ | 静岡生まれ横浜在住。1977年、武蔵野美術短期大学油絵科卒業。1989年、桑沢デザイン専門学校スペースデザイン科卒業。オブジェ東京展佳作。1991年、HOUSE K3 project インスタレーション展。2019年 BankART AIR again 参加。



新作の制作をします。アルミ板に直接色片を貼り、横方向への集積と拡散によって、形容しがたいイメージ、何かのようで何物でもない物を作ります。それと共に前回の作品の続きを作り、撮影してアルミ板にプリントします。それを見る人の記憶を引き出すために。



St16 橋村至星

はしむら・せいせい | '90年代に9年間NYで過ごした後帰国。身近な日常風景に生きる人とそこに潜む違和感等をテーマに絵画作品を制作。 Gallery Side2, Gallery Lara Tokyo, Launch Pad Galleryで個展。グループ展国内外多数。都筑アートプロジェクトに2015年から毎回参加。BankART AIR複数回参加。SICF14、リキテックスアートプライズ2014入選。



SNS上やニュースで近年見かけた政治的に意見する日本人及び日系の女性達を、西洋の伝統的な肖像画のフォーマットの一つであるカメラ型の楕円形のキャンバスに描くプロジェクトに着手しています。また昨年から続くコロナ禍での生活で見て感じた身近な都市部の風景を絵画作品として制作しています。

